

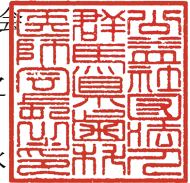
群 歯 発 第 1 3 5 号
令 和 7 年 4 月 17 日

多職種連携推進協議会 関係各位

公益社団法人群馬県歯科医師会

会 長 村 山 利 之

地域保健
担当理事 佐 野 公 永



令和7年度 群馬県歯と口の健康週間県民公開講座のご案内について

拝啓 春暖の候 関係者各位におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

また、平素より本会事業運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、このたび本会では群馬県との共催で「令和7年度 群馬県歯と口の健康週間」事業の一環として
標記講演会を下記のとおり開催させていただくこととなりましたのでご案内申し上げます。

つきましては、本講演会のポスターを添付させていただきますので、掲示板等にご掲示いただければ
幸いに存じます。

敬 具

記

日 時	令和7年5月31日（土）	午後2時～午後4時
開催場所	群馬県歯科医師会館 5階ホール 前橋市大友町1-5-17	
演 題	医科歯科連携で超高齢化していく地域を支える —常時9000名の在宅患者さんをサポートしている私達からのアドバイス—	
講 師	医療法人社団 悠翔会 理事長 佐々木 淳 先生	

令和7年度 群馬県歯と口の健康週間

県民公開講座

5月31日（土）

14:00～16:00

会場：群馬県歯科医師会館

前橋市大友町1-5-17

※駐車場には限りがございますので、
乗り合わせまたは公共交通機関の
ご利用をご検討ください。

医科歯科連携で 超高齢化していく 地域を支える

～常時9000名の在宅患者さんを
サポートしている私達からのアドバイス～

入場無料
事前申込不要

医療法人社団悠翔会 理事長

佐々木 淳 先生

主催：公益社団法人群馬県歯科医師会 共催：群馬県

後援：公益社団法人群馬県医師会・公益社団法人群馬県薬剤師会

お問合せ

公益社団法人 群馬県歯科医師会 TEL 027-252-0391

演 題：医科歯科連携で超高齢化していく地域を支える

～常時 9000 名の在宅患者さんをサポートしている

私達からのアドバイス～

講 師：医療法人社団悠翔会 理事長

佐々木 淳（ささき じゅん）先生

1973 年 京都市生まれ。

1998 年筑波大学医学専門学群卒業。社会福祉法人三井記念病院内科/消化器内科、東京大学医学部附属病院消化器内科等を経て、2006 年に最初の在宅療養支援診療所を開設。2008 年 医療法人社団悠翔会に法人化、理事長就任。2021 年より 内閣府・規制改革推進会議・専門委員。

現在、首都圏ならびに離島等に全 25 拠点を展開。また、近年は在宅療養支援診療所のみならず、訪問看護ステーションや看護小規模多機能型居宅介護事業所も開設。最期まで自宅で過ごしたいと願うすべての人の想いに応えるために邁進している。

（抄録）

在宅高齢者は低栄養が多い。最大の理由は、低栄養に対する無知と無関心である。年齢とともに食事量や体重が減少していくことが「年齢相応」として、本人、家族のみならず、医療介護専門職にも違和感なく受け入れられていることが多い。もちろん、加齢に伴い身体機能は低下していく。しかし、不適切な栄養管理により、低栄養、サルコペニア、フレイル、そして廃用症候群と負のスパイラルに陥り、老化のプロセスを加速させているケースが目立つ。これらは高齢者にとって要介護状態や死亡のリスクを高め、QOL を低下させる。在宅高齢者の健康を守るために、まずは低栄養という病態に対して地域住民や専門職に対する認知度を上げていかなければならない。そのために、医療法人社団悠翔会では、2011 年、医師・歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士などを中核に、多職種からなる「在宅栄養サポートチーム」を発足させ、地域の啓発および在宅高齢者への食支援・栄養ケアに取り組んできた。在宅栄養サポートのターゲットは、その人の栄養状態だけではない。その人の生活であり、その人の人生そのものでもある。在宅医療を受けている患者の多くは治らない病気や障害とともに、人生の最終段階に近いところを生きている。生物学的な栄養改善という医学モデルに基づく介入のみならず、生活の楽しみ、人生への納得のための支援という側面も重要になる。そのアウトカムは必ずしも生存期間の延長だけではない。また、食事は生活の一部でもある。専門職に支配されるものであってはならない。家族の介護負担、経済的負担にも留意しながら、本人・家族が納得して食事を楽しみながら栄養管理ができる「自立した状況」にシフトしていくことを目標としなければならない。どんなに栄養価の高い食材も、単なる「栄養補給」では味気ない。個々の栄養成分の充足率ももちろん重要だが、それはよりよい生活・人生のための手段に過ぎない。また、誰と食べるかも非常に重要なファクターである。食はコミュニケーションでもあり、高齢者の場合には、人とのつながりがその人の予後を左右する。医科歯科介護の連携により、包括的な在宅での食支援を実現し、食べることの本来の意味を見直すきっかけを作りたい。